

令和元年度学校関係者評価表

令和2年6月19日

構成員 4名 学院教職員以外の有識者（法人本部長、法人看護部長、社会保険労務士、卒業生代表）

評価領域ごとの学校関係者評価・意見

基準1 教育理念・目的・育成人材像	看護師の養成所として、地域のニーズに応える理念・目的のもと、看護師の育成にあたっておられる。引き続きしっかり対応していただき、一人でも多くの看護師を育て上げていただきたい。
基準2 学校運営	母体法人の運営理念のもと、学院の理念を決定されており、職員一人一人の意見、学生の意見を尊重し、学校の運営にあたっておられる。
基準3 教育活動	<p>教育到達レベルを明示し、学生の指導を行っておられる。卒業後、一人の社会人として社会に通用する人材の育成に努められていると思う。</p> <p>しかし、毎年、未履修者、進級不可の学生が少々出るとしても、卒業率が70.7%というのは、やや問題と感じます。未履修傾向にある学生に対し、教員が、その成績不良の原因(学力不足、学習意欲減退、生活問題、精神的問題等)を早期に探り、本人への適切なアドバイスと援助、保護者による学生への精神的サポートを求めることが必要ではと感じます。</p> <p>専任教員は、専門の学会、研修会等に参加するとともに、自らが、一つの研究テーマをもって研究し、可能なら数年に一度程度、研究会や学会で発表するなら、教員としての自己の資質向上に役立つのではと感じます。</p>
基準4 学修成果	<p>就職率100%は評価できます。学生が希望する病院等への就職ができていることは教職員の努力の成果と思います。学生募集の際、大いに活用すればいいと思います。</p> <p>資格・免許取得のための指導体制は、しっかりしているため、期待される成果（国家試験合格率、90%以上）は上がっています。また、当該年度の不合格者、過年度卒業生に対してもしっかりしたサポートがなされていると思います。ただ、将来、留学生の受験対策も、日本人と同じでよいかどうか考えておく必要があると思います。</p>

	<p>卒業生とその指導者にアンケートをとり今後につなげてはどうかと提案します。学修の環境も良くて、専任教員や外部講師の授業でも過去問をもらい終講試験勉強の時から国試の勉強ができていたことは評価できる。国試の合格率は学生自身でいかに協力し合うか、実習中の事前学習で国試を意識したまとめ方になっているか、本人のやる気があるか重要なので支援体制をさらに整備されるよう願います。</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>学生個々と向き合い、各個人に合わせた指導を行っておられる。しかし、一定の退学者が生じている現状がある。夢と希望をもって入学した学生へのさらなる支援を期待します。</p> <p>中途退学者を減らすため、①入試面接の際、入学動機がやや低い者に対して、学校側から看護職への意欲を高めるような示唆を与えておくことは必要ではないかと思えます。②退学傾向者を早期に発見し、教員やカウンセラーによる面接によって、看護への学習意欲を復活させる努力が必要だと思えます。③日頃から、保護者へ看護職の重要性などをアピールする学院の情報を発信し、家庭でも学生の学習意欲をサポートしてもらおう。など策を試みてはと思います。</p> <p>カウンセラーは学校内を巡回しており、話しかけてくれるため、たわいのない話をするだけでも学生にとっては大きな支えになっていると思う。退学者が多いのは、今までおかれた環境や普段の生活習慣、学習習慣が一番関係しているのではないかとおもう。学生の興味関心が少しでも変わるよう実技をしたり、体験をしてもらうことが大事だと思う。</p>
<p>基準6 教育環境</p>	<p>教育環境については問題ないと思える。教室も人数に対し十分な広さであり、図書室やグループワーク室もあって勉強しやすい空間であると思う。</p> <p>現在、韓国の大学と連携があるが、国際性を特徴とする本学院においては、将来、看護学の先進国であるアメリカへの研修を視野に入れておく必要があるのではないかと感じます。</p>
<p>基準7 学生の募集と受け入れ</p>	<p>広報活動は幅広く行われている。今後は、県内、県外の隣接校のみならず留学生の受け入れも考え日本語学校へのアプローチを考えてみてはどうか。また、昨今の専門学校離れ（大学進学増）なども考慮して公募推薦、または社会人の受け入れを広くするために条件の緩和等考慮しながら計画をもって実施されている。</p>

基準 8 財務	収入の中心である授業料等が休学、退学者増によって減収するのは課題である。今後は、学年担任、スクールカウンセラー等で学生のフォローをより一層行ってもらいたいことが重要かと考える
基準 9 法令等の遵守	昨年完成年度を迎え、引き続き適正な法令順守を引き続き行ってもらいたい。
基準 10 社会貢献・地域貢献	活動が学院からの押し付けにならず、学生が自発的に必要とされる場所へ活動ができるよう工夫が必要である。また、持続性のある活動も学生にとっては有意義なものとなるのではないかと考える。真のボランティア精神を育てたい。

—学校関係者 総括—

昨年度は、「学内自己評価」を行い、本年度よりその自己評価をもとに学校関係者による評価領域ごとの「学校関係者評価」を行いました。平成 28 年に開校して以来学校運営を進めて参りましたが、概ね、本学院の運営について、各評価項目とも大きな教育的課題のご指摘はございませんでした。

開設後 5 年が経ち、施設はまだ新しいものの、今後各機器類の更新を行っていかねばなりません。計画性を持って進めていきたいと考えております。そして、学校運営のソフト面であるカリキュラムの更なる充実と教員の教育水準を高めるよう努めて参ります。

より良い学院運営のため、今回行いました「学校関係者評価」をはじめ、内外からのご意見を受け止め、学院運営の今後に活かしていくとともに、学院の教育理念に沿った地域のニーズに応える質の高い看護師を輩出していけるよう努めていきたいと考えています。ご協力、ありがとうございました。